

抗がん剤治療患者を 支援する薬剤師の活動

抗がん剤治療を行う患者さんの多くは、副作用に苦しんでいます。そんな患者さんを支援するための取り組みをご紹介します。

がん罹患状況と抗がん剤治療

国立がん研究センターがまとめている最新のがん統計により、日本人のおおよそ2人に1人はがんになるといわれています。また、日本人ががんで死亡するのは、男性で26.7%（4人に1人）、女性で17.9%（6人に1人）のことです。これらのことは、日本人が長寿であることも深く関わっていると考えられています。

医療技術の進歩に伴い、従来入院して行っていた抗がん剤治療を、通院でも行えるようになってきました。がんが診断された後どのような治療を行うかは、がんの進展具合によ

り異なります。

ステージ区分Ⅰ～Ⅲの方は、根治する可能性のある方が多く、「症状はないけどがんと言われた」と話し、実際、症状がほとんどない方が多いです。また、何らかの症状があり、がんが見つかった方の多くはステージⅣとされることが多いようです。自覚症状は少なく、風邪の初期症状のような、「咳が続く」、「食欲がない」くらいの症状のときもあります。なお、ステージⅣの方は延命のための治療を行うのが一般的です。

これらの際に行うのが化学療法、いわゆる抗がん剤治療になります。治療薬の開発は目覚ましく、それに伴い生存期間が延びているのは事実で、一方、治療薬の副作用と付き合う

期間も延びているのも事実です。

抗がん剤の副作用は、食欲不振・吐き気、下痢、しびれなどさまざまあります。使用する治療薬によって出方は異なりますし、個人差があるのが一般的です。理想をいえば治療効果があり副作用が少ないことが最もよいわけですが。

抗がん剤治療患者への支援

薬剤師は主に病院、または地域の調剤薬局・ドラッグストアで働いています。基本的に病院の薬剤師は入院患者さん、調剤薬局・ドラッグストア

の薬剤師は外来患者さんと、それぞれ受け持ちの患者さんは異なりますが、個々に薬を用意し、きちんと服薬できているか、副作用が出ていないかを確認しています。

近年、抗がん剤を投与する病院の薬剤師と地域の調剤薬局の薬剤師が力を合わせ、患者さんを支援していくという取り組みが始まりました。病院薬剤師が、抗がん剤点滴を行う患者さんの投与後の体調の経過を確認し、血液検査データなどと共に連絡用紙を作成し、患者さんに渡します。患者さんは、それを持って地域の調剤薬局に行きます。調剤薬

販薬を飲んでいいか、「知人にサプリメントをすすめられた場合に飲むべきか」などの疑問にも対応します。

今回は抗がん剤治療をしている患者さんの支援体制についてお伝えしました。抗がん剤治療は患者さんの普段の生活を支援する手段であると考えています。時に、苦しいこともあると思いますし、治療を継続するか悩むこともあると思います。まずは身近にいる薬剤師に相談していただけたらと思います。薬剤師としての専門知識から疑問や相談にお答えしたいと思っています。

（平鹿総合病院 酒井良隆）

認定かかりつけ 基準薬局

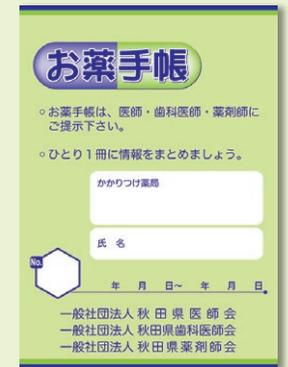
『認定かかりつけ基準薬局』とは、秋田県薬剤師会の会員が所属する会員薬局がより「質の高い薬局」を目指し、普及・拡充することを目的としております。

地域住民のために、地域に密着した健康情報の拠点として、一定の基準を満たした薬局を『認定かかりつけ基準薬局』として認定したものです。

もちろん基準薬局でなくても処方せん調剤を行うことはできますが、『認定かかりつけ基準薬局』をあなたの『かかりつけ薬局』選びの1つの目安としてください。



くすりの「安全な服用」 まずは、お薬手帳の 提示から！



処方せんの有効期限は
処方日を含めて4日間です。

秋田県薬剤師会
秋田市千秋久保町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail info@akiyaku.or.jp http://www.akiyaku.or.jp